

昭和五十九年度受彰町会長（候補者）氏名

（五年勤続の部）

地区	町会名	氏名	地区	町会名	氏名
東部4	三本木和田	内平	南部4	金浜	成田輝光
"5	戸山奥崎	国栄	"5	幸畑団地西須	藤茂
"6	佃第三	田熊二	"7	桜川柳	川正七
"6	佃国鉄	鈴木政人	"8	細越木	村覚次
"9	合浦	吉田慶喜	北部1	新生	八木橋満則
西部1	東昭和	細川信男	"3	左堰	工藤光雄
"1	新富田	澤田猪一郎	中部3	本町中央	菅悦夫
"5	平和	五十嵐千代次	"4	中新	町中島輝年
"7	石江渡中	川口要作	"5	旭町	坂倉金
南部1	高田	阿保健蔵	"5	緑町	千葉平蔵
"1	小館	柴田正春	"5	安方	大柳拓道

（以上二十一名）

（十年勤続の部）

地区	町会名	氏名	地区	町会名	氏名
西部1	沖館第三	石戸谷忠夫	南部7	東奥野井	沼稲一
"3	南千刈	高橋正雄	"7	玉川	大湯繁司
"3	西千刈	川村清重	"8	安田	三橋勝哉
"5	平岡	増田福松	北部1	羽白	工藤盛穂
"6	浪館浅井	太田松雄	"2	前田	大澤鶴松
南部3	信用	長谷川政勝	中部3	橋本南第二	青海辰治
"3	常盤	町中正雄	"3	横山	町島谷哲爾
"6	八甲田大橋	阿部隆次郎	"4	安方	大柳拓道

（以上十六名）

右の受彰候補者は、決定後、五十九年度定時総会の席上で表彰されることとなります。この外、各町会より推せんされた優良町会員は二一七名になっております。

五十九年度の街灯情報

街灯総数……………一九、九七〇灯
 補助金総額……………五五、七六一、七九八円
 増灯数……………四〇七灯（昨年度比）
 町会支払い電気料総額……………七七、三七九、八五二円
 平均補助率……………七二%
 補助申請町会数……………三三三町会

各町会長の領収一覧表と次年度の補助申請をまとめた一覧表は、市へ提出済み、これ等の書類は、市でも監査の対象となるものであり、いくらか催促しても期日まで提出しない町会が、一町会でもあり、書類作成できないばかりか、全部の町会へ迷惑をかけることになるので、お気の毒だがそのような町会は除外して申請した。

東北電力の登録灯数と町会からの申請した灯数と合わない町会がかなり多く、電力サービス課鶴谷氏のご足労を何回もお願いした。これらの照合に約一カ月を要した。今後、この点についての事務的なシステムを再検討してみたいと思う。

なお、五十九年度町会関係の、電気料、コミュニティづくり、福祉館建設等に関する市予算は減額されないの、前年通りにみて新年度予算づくりの参考にしてください。

老人家庭の雪おろし奉仕活動

町会役員と高校生の協力

二月十一日、石江江渡中町会（川口要作会長）では、町内で入院中

の老人と奥さんが付添いのため留守になった老夫婦一家のため以上の雪に埋まり危険に類した屋根の雪おろし奉仕をかって出、出勤人員は、町会役員五名、ボランティアの高校生五名で、朝九時石江字平山二の一五六、雪田貫一（七十二才）さん宅前に集合、直ちに作業開始、午后三時迄にはきれいに雪をおろし、片づけ、雪田さん夫妻から非常に感謝された。この除雪には、町会役員が所有している小型除雪機も提供され機動力を発揮した。雪でけんかする町民もあるなかで、このような美しい雪国最高のコミュニティ活動もあることは、心暖まる思いである。

優良ゴミ収集所町会

えらばれた十二町会

日頃、町内のゴミ収集管理が優良であるので、市内二、八七八個所から、次の十二町会がえらばれ、当会定時総会の席上で表彰されることになった。

露草、蛭沢、茶屋町、茶屋町第二、茶屋町東部、茶屋町南、八重田、（以上梨ノ木管内）

安田、浪館第一、新城大坂第二、新城上町、西上古川第二（以上三管内）

町内交通事故防止コンクール

入賞 九 町 会

応募した三十五町会から、審査の結果、次の九町会がえらばれた。桜町、若葉町、三内第一、佃第一、協和町、東旭町、三内第三、岡部佃北、入賞町会は、当会定時総会で表彰されることになった。

地区連民警懇活動始まる

啓蒙の候となり、次の地区連、早速活動し始まる。
 東部第三区連合町会（福山正晴会長）二月二十九日 造道福祉館
 中部第五区連合町会（成田勝美会長）三月十七日 広田神社
 南部第八区連合町会（和田敏光会長）三月二十四日 片岡福祉館

墓碑銘

故坂本松三郎殿（八十八才）二月十六日、急逝
 岡本喜作（初代）関谷貞義（二代）に次ぐ三代目の当連合会々長として、十四年間在任、とくに当会の基盤整備に努力された。頑固だが卒直な人で、よく若い時の話をしてくれたものである。

「お前は、頭が大きく、カラ声高いから坊主になれ」と親にすすめられたが、坊主が嫌で海軍に入ったという。（大正五年海軍入団）
 一兵卒から叩き上げて、敗戦の年、海軍少佐になった。年に似合わぬ健康家で、ポタ餅、大福餅のように胃にドッシリこたえるものが好きである。事務所で大福餅七個喰べたことがある。四つまでは味はわからぬという、五つ目からどうやら甘く感じ、七個ベロツと喰べたのには、おどろいたものである。ケーキやシュークリームのような軽いものは喰べた気がしないようである。また愛妻家で、十数年寝たきりの老妻の食事から下の世話まで殆ど自分で行うなど、常人には真似できないことである。しかし老妻に先立たれたからは、めっきり弱気になり、声にも迫力がなくなった。十六日午前十二時二十分当館二階エレベーター内に倒れているとの報に、驚いて駆けつけたところ、既に顔貌生色なく、失神のまま、狭いエレベーター内に横たわっていた。救急車で運ばれた後間もなくの訃報を受けた。日頃九十才迄は生きたいと云っていたが、突然発作の心不全で生涯を閉じた。
 心からご冥福を祈ります。（合掌）

思い出もそれぞれ雪夜の読経かな

(K)

